未来の兵庫築く若き力

「特集 建設分野の魅力」第6回

建設業界で働くことを目指して、県内の職業訓練施設で建築・土木の知識と施工技術を学ぶ若者たちがいる。研修施設での基礎知識習得のほか、現場見学では大型構造物を造りあげていく仕事にやりがいを感じ、工事現場のインターンシップでは、働く体験を通して、建設業に抱いていたイメージが変わったと話す。建設業の魅力アップの取り組みを紹介するとともに、建設業で働くことを目指す若者たちの思いを聞いた。

（取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会）

未来につなぐ
つくるひと・まもるひと

学生にやりがい伝える

県建設業育成魅力アップ協議会
尾田博明会長に聞く

―「兵庫県建設業育成魅力アップ協議会」設立の目的は。

建設業は、仕事がきつい、危険というイメージから若者の就職先として選ばれにくくなっている。このため、技能者の高齢化が進み、施工力の低下や技能の伝承などが大きな課題となっている。そこで2014年に建設業の魅力を発信し、建設業を目指す若者を増やすため、産学官が連携し協議会を設立。兵庫県県土企画局長として会長職を務めている。

―どのような活動をしているのか。

高校生を対象に、現場見学、建設機械の操作体験の場を設け、建設の仕事のやりがいや面白みを肌で感じてもらっている。また、将来の進路を考え始める2年生を中心に、インターンシップ（就業体験）のほか、建設分野の仕事をPRする説明会などを実施している。

―建設業の仕事が具体的、実践的に学べる場はどこに。

建設技能者の専門的育成施設として、三田建設技能研修センター（三田市）がある。ここでは、鉄筋施工、型枠施工、とび、配管、建設機械運転士など技能ごとの講習で、専門知識と施工技術を身に付けることができる。このほか、県立神戸高等技術専門学院（神戸市）、県立ものづくり大学校（姫路市）、県立但馬技術大学校（豊岡市）にも建設分野の知識、技術を学ぶコースがある。協議会では、就職に直結する学習の場に加え、今後は小中学生にも魅力を伝えていきたい。また、建設現場の仕事がより魅力を増すように、働き方の見直しにも取り組んでいる。明日の兵庫を担う仕事にぜひ関心を持ってほしい。

内装の技で喜ばせたい

県立神戸高等技術専門学院インテリアリフォームコース2年　寺澤彩奈さん(20)

県立神戸高等技術専門学院のインテリアリフォームコースで学ぶ寺澤彩奈さんは、現在〝卒業製作〟の真っ最中。モデルルームを使って天井や床、壁などの内装を仕上げていく。「1年生のころは壁装（クロス張り）がテストの制限時間内に終わらないこともあった。段取りを体で覚えるまで、家でも反復練習を繰り返して克服した」という頑張り屋だ。

もともと絵を描くのが好きだったが、住宅リフォームの完成前後を伝えるテレビ番組で、出来栄えに涙を流して喜ぶ依頼主の姿を見て「こういう仕事に就きたい」とあこがれ、同校への進学を決めた。法律やインテリア技術などの座学やコンピューターを使って図面を描くCAD、内装の実技など学ぶことは幅広い。

クラスメートの13人は17～40歳と幅広く、女性が6人を占める。「仲間意識が強く、互いに支えあいながら楽しく学ぶことができる」。夏に行われた壁装の校内コンクールでは2位に選ばれ、表彰も受けた。

目標としていたリフォーム関連の会社に就職が決まった。「建築士の資格も取って、お客さまに喜ばれる提案ができるような人になりたい」と入社を心待ちにしている。

クロス張りの練習をする寺澤彩奈さん。インテリアリフォームコースは女性に人気が高い＝神戸市西区学園東町5、県立神戸高等技術専門学院

「社会の役に」膨らむ夢

兵庫県立ものづくり大学校住宅設備コース　名定隆人さん(18)

父が空調設備工事業を自営している名定隆人さんにとって、住宅設備工事はもともと身近な仕事だった。

「手に職を付けて働きたい」と、父の背中を追うように自然と兵庫県立ものづくり大学校の住宅設備コースへの進学を決めたという。電気設備や空調設備、給排水衛生設備、配管の知識、施工・保守の技術など、1年間のコースで学ぶことは数多い。

締めくくりの時期に入った現在は、これまで学んだ基礎を生かし、模擬家屋を使って実際に施工する授業が続く。この日は浴室に付けるシャワー設備の蛇口、配管の据え付けの実践だ。四方にあるネジをバランスよく締めていかないと安定しない。その後もユニットバスやエアコン、システムキッチンの実技が続く。「全体がうまく据え付けられた時の達成感がたまらない」

1年間の学びを通じてあらためて「自分が身に付けたことは電気や水など、暮らしに欠かせないものばかり。今は社会に役立ちたいという意欲が膨らんでいる」という。

当面の目標は第2種電気工事士の資格を取得すること。そして「大学校で学んだことを生かせる仕事に就きたい」と目標を見据えている。

シャワー設備の据え付けを学ぶ名定隆人さん。丁寧さはもちろんスピードも大切＝姫路市市之郷、県立ものづくり大学校

明日を担う次の世代

■受講生募集■　各施設では受講生の募集を行っている。詳細はホームページで。検索は各施設名で。

安全な現場に印象一変

川嶋建設　鞍留　佑さん(28)

鞍留佑さんは京都の大学を卒業後、音楽活動を続けていたが、実家のある豊岡市に戻る際に、地元に役立ちたいとの思いから、建設業を進路に選んだ。建設業への入職を支援する豊岡建設技術者養成センター（豊岡市）を通じて実技の研修に出向いたのが三田建設技能研修センター。小型移動式クレーンの操作などを学んで資格を取得。その後、豊岡市内の建設会社5社の現場でインターンシップの経験を積んだ。

「研修でさまざまな機械を学んでいたので不安なく就業体験できた」。インターンシップで出会った工事現場の所長のてきぱきとした仕事ぶりに憧れ、川嶋建設に応募。2015年11月に入社した。

現在は円山川の護岸ブロック工事で資材管理の仕事を担う。「整理整頓が徹底された安全な現場を知り、建設業のイメージが変わった。現場の進行に合わせ、どのブロックをどれくらい仕入れるか見極めるなど、仕事はやりがいを感じる」と話す。

三田建設技能研修センターの運営組織の会長でもある同社の川嶋実社長は「行政と手を携えながら、若い担い手がこの業界で働きたいと思える環境を、業界を挙げて用意していきたい」と話している。

会社の先輩の説明を聞く鞍留佑さん（右）。現在は円山川護岸ブロック工事の資材管理を担当＝豊岡市日高町西芝

「ものづくり」に憧れて

三田建設技能研修センター　吉田真由子さん(29)

「玉掛け、よーし」。重量物をクレーンでつり上げるロープの掛け外し作業の講習。実習場に元気のいい声が響き渡る。

声の主は、県が実施する人材育成事業を通じて、三田建設技能研修センターで建設技能の基礎を学ぶ吉田真由子さん。もともと接客業や営業の仕事を経験してきたが、建設業を営む夫を通じて、大勢の力で橋や道路ができあがっていくものづくりの現場にひかれ「自分もそこに携わってみたい」と思うようになったという。人材育成事業のことを知り、即座に応募。2015年11月から4カ月間にわたる研修を受けている。

高所作業車、小型移動式クレーンの操作から測量、左官、型枠、鉄筋まで、建設現場で求められる技能の基礎をひと通り学ぶ。安全衛生の授業では、法律によって危険をなくすためのさまざまな対策がとられることを理解できた。現地見学では迫力のある新名神高速道路の工事現場や青野ダムを目の当たりにし、あらためて建設業で働く思いを強くしたという。

5歳と2歳の子育て中とあって、すぐに現場に出ることは無理だが「修了後も資格取得のための勉強を続け、早く現場に立ちたい」と考えている。

「玉掛け、よーし」。建設技能の基礎を学ぶ吉田真由子さんは5歳と2歳の子どものお母さん＝三田市香下、三田建設技能研修センター実習場